

2016年
6月29日
水曜日

秋吉 史夫 准教授 (金融論)

マイナス金利の話

金利とは、お金を使うことを我慢して他人に貸したことで受け取る報酬といえます。したがって、他人に貸したお金は増えて戻ってくるのが通常であり、この増えたお金の分が金利になるわけです。しかしマイナス金利の世界では、この常識が通用しません。お金を使うことを我慢して他人にお金を貸したのに、お金は増えるどころか減って戻ってくるのです。

この奇妙なマイナス金利が見られるようになったのは、日本の中央銀行である日本銀行(日銀)が始めたマイナス金利政策がきっかけです。日銀は、銀行の銀行として民間銀行のお金を預かっています。これまで日銀は、この預り金に対してプラスの金利(0.1%)を付けていました。しかし、2016年2月から預り金の一部に対してマイナス金利(-0.1%)を付けるようになったのです。

なぜ日銀はマイナス金利政策を始めたのでしょうか?これは日銀が、世の中に出回るお金の量を調節して物価や景気を安定させる金融政策を担っていることと関係があります。日本経済はここ20年ほど、物価が下がり続けるデフレに苦しんできました。このデフレを解決する方法の一つ

が、世の中に出回るお金の量を増やして経済を活性化することです。これまで日銀は世の中に出回るお金の量をなんとか増やそうと、民間銀行に大量のお金を出し続けました。しかし企業への貸し出しに慎重な民間銀行は、日銀から受け取ったお金を貸し出しにまわさず、日銀に預けっぱなしにしたのです。このため、デフレの解消はうまくいきませんでした。そこで次の一手として日銀が採用したのがマイナス金利政策でした。マイナス金利であれば、民間銀行が

日銀に預けているお金はどんどん減っていくこととなります。日銀からお金を引き出して現金に換えれば、お金の目減りを防ぐことができます。しかし民間銀行が日銀に預けているお金は、マイナス金利が適用される預金だけでも20兆円

(2016年5月現在)という大変な金額であり、現金の保管費用を考えると難しいものがあります。日銀に預けたままではお金が減っていくということになれば、民間銀行は多少無理しても企業へ貸し出そうとするかもしれません。そうすれば世の中にお金が出回り、デフレが解消されるかもしれません。これが、マイナス金利政策のねらいなのです。では、私たちが民間銀行に預けている預金にも、いずれマイナス金利が適用されるようになるのでしょうか? 断定はできませんが、私たち

の預金の金利がマイナスになることはないと思います。預金者は容易に預金を現金に換えることができるからです。日本の1世帯当たりの預金額は650万円程度であり、現金の保管費用はそれほどかかりません。したがって、もし預金がマイナス金利になれば一斉に引き出され、銀行の経営が立ち行かなくなる恐れがあります。このため、民間銀行が私たちの預金にマイナス金利を適用することは難しいと考えられます。

私たちの預金の金利がマイナスになることはなさそうですが、日銀のマイナス金利政策は、銀行や企業の活動に様々な影響を与え始めており、思わぬところで私たちの生活に影響が出てくるかもしれません。今後しばらくは、経済の動きを注意深く見ていかなければならないと思います。